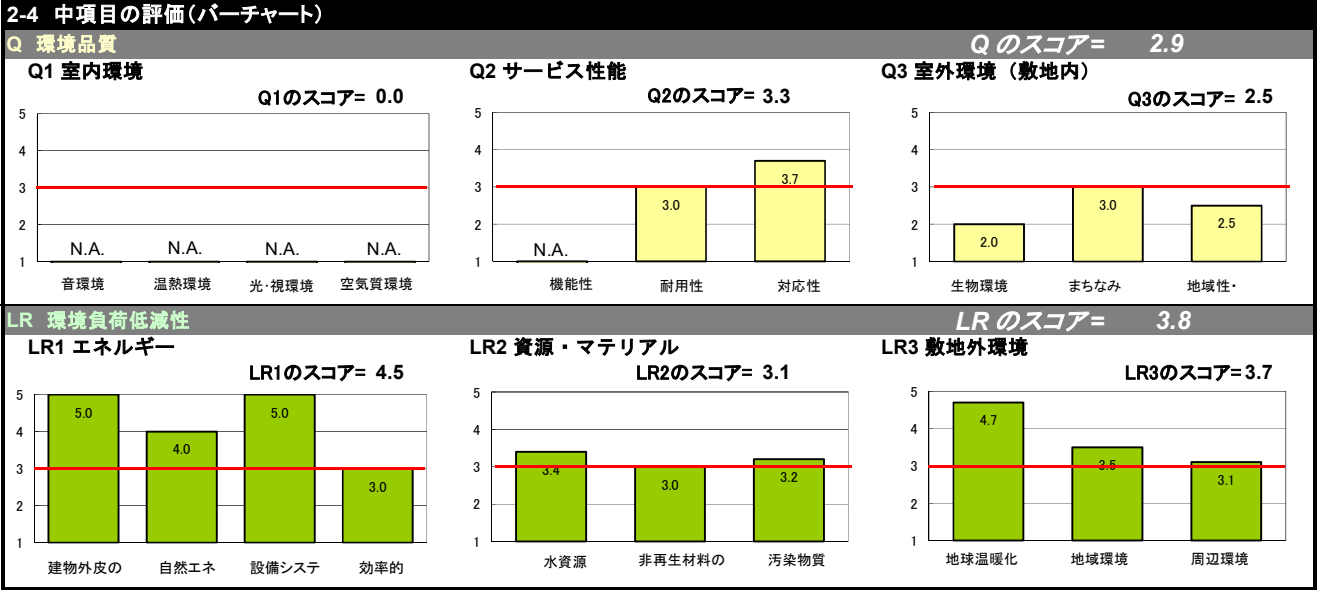
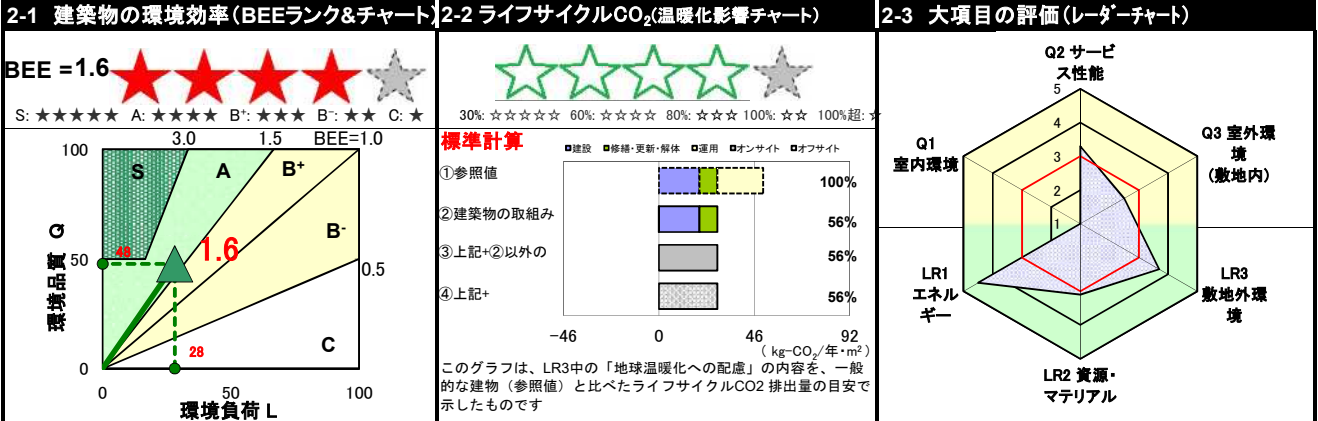


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.2)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	浜北物流協同組合 竜南新倉庫	階数	地上2F	
建設地	静岡県浜松市浜名区竜南522、523	構造	S造	
用途地域	市街化調整区域、法22条区域	平均居住人員	0 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	0 時間/年(想定値)	
建物用途	工場	評価の段階		
竣工年	2025年10月 予定	評価の実施日	2024年9月3日	
敷地面積	9,992 m ²	作成者	小野寺 司	
建築面積	3,888 m ²	確認日		
延床面積	7,770 m ²	確認者		



3 設計上の配慮事項		
総合 これはCASBEE静岡 (2021年版) ver2.3.2による評価結果です。		
Q1 室内環境 全体を工場として評価するため評価対象外とした。	Q2 サービス性能 天井高2.7m、かつ、執務室に十分な屋外の情報を得られる窓を設置	Q3 室外環境 (敷地内) 景観条例に充分適合するように配慮した
LR1 エネルギー ハイスାଇドライト・太陽光発電等、太陽光エネルギーを用いた環境負荷の低減に力を入れた	LR2 資源・マテリアル 使用資源に配慮して外部環境に危害を与える可能性の低いものを採用	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 使用率を削減するように努めた

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要										
建物名称	浜北物流協同組合 竜南新倉庫				BEE	1.6	BEEランク	A	★★★★	
2. 重点項目への取組み度										
重点項目	得点※/満点		取組み度				評価			
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	4.0	/5	    				よい 			
”災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	3.0	/5	    				ふつう 			
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.8	/5	    				ふつう 			
”緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.9	/5	    				がんばろう 			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例		よい 4 点以上 		ふつう 3 点以上 		がんばろう 3 点未満 	
3. 重点項目についての環境配慮概要										
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。					内訳対応項目					
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)					得点		4.0			
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ②倉庫内においてハイサイドライトを採用。 ④空調・給排水配管は硬質塩ビ管を採用し耐用年数を延ばした。				Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能
					Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備
							3.2	3.2.1	③	昼光制御
					Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数
							2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔	
							2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
							2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔	
							2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔	
							2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔	
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)				Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出
					3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上	
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑧ハイサイドライト・太陽光発電による自然エネルギーの利用。				LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制
						2			⑧	自然エネルギー利用
						3			⑨	設備システムの高効率化
						4	4.1		⑩	モニタリング
							4.2		⑩	運用管理体制
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水設備の導入。 ⑫主要構造部SS400採用、部材の再利用可能性向上の取り組みを行った。 ⑬硬質ウレタンフォーム断熱材の導入。				LR-2	1	1.1		⑪	節水
							1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無
								1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無
						2	2.1		⑫	材料使用量の削減
							2.2		⑫	既存建築躯体等の継続使用
							2.3		⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用
							2.4		⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
							2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材
							2.6		⑫	部材の再利用可能性向上への取組み
						3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用
							3.2	3.2.1	⑬	消火剤
								3.2.2	⑬	断熱材
								3.2.3	⑬	冷媒
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭省エネルギー対策を行った。				LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮
						2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善
”災害に強いしずおか”の形成(Disaster)					得点		3.0			
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰ダクト・配管の吊り込み方法は適選振止め支持とし負荷低減運転を可能にした。 給排水・衛生設備については井水を利用可能とした。				Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性
								2.1.2	⑯	免震・制振性能
							2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備
								2.4.2	⑰	給排水・衛生設備
								2.4.3	⑰	電気設備
								2.4.4	⑰	機械・配管支持方法
								2.4.5	⑰	通信・情報設備
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)					得点		3.8			
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑱衛生設備の清掃道具やスペースを十分に確保した。 ⑳倉庫空間を十分に確保するため階高7.3mとした。				Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画
						3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり
								3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ
					Q-3	3	3.1		⑳	地域性への配慮、快適性の向上
”緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)					得点		2.9			
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)				Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出
						2			㉑	まちなみ・景観への配慮
						3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上
	■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)				LR-2	2	2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材
					LR-3	2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善